

満開のひとつばたご4500人が楽しむ

～ひとつばたご祭り～

ゴールデンウィーク中の5月4日、上対馬町鰐浦で「第17回ひとつばたご祭り」が開催されました。

当日は、好天に恵まれ、ひとつばたごも十年に一度という見事な開花で、例年を上回る約4500人のお客さんが祭りを楽しみました。

祭りでは、愛鼓連の太鼓演奏や上対馬高校のブラスバンド演奏、寿川会による踊りが披露されたほか、ひとつばたごの苗木、海産物などの特産品、鰐浦特製弁当（さざえメシ）などが販売されました。

また、海上からひとつばたごを眺める遊覧航海も行われ、約700名の方が楽しみました。



福岡から来ました



左:宮原区長、右:柘植所長



親子でパチリ



満開のひとつばたごにも負けない演奏でした



インタビュー

宮原博之（鰐浦区長）

今年は天候にも恵まれ、近年まれに見るひとつばたごの開花にも恵まれ、最高の祭りになったと思います。人出も多く100%の出来だったと思います。また、お客様のマナーもよくゴミがほとんどで出ない祭りでした。準備から数日間ご協力いただいた区民、上対馬支所の皆さんに感謝いたします。

柘植貴敏（岐阜県中津川市蛭川総合事務所長）

ひとつばたごが縁で対馬との交流も11年目を迎えました。蛭川村も合併し中津川市となりましたが、これからもこの交流を盛んにしていきたいと思っています。

佐護小に本のプレゼント



広報つしま4月号のトピックス「対馬縦断に挑戦の小学生」で紹介した佐護小学校（加藤了校長・児童27名）に、朝日学生新聞社から図鑑や絵本、児童書など59冊がプレゼントされました。

これは、同新聞社が発行する朝日小学生新聞が、対馬縦断に挑戦していた佐護小の3組の兄弟、姉妹を取材したことがきっかけで、総合の学習や普段の授業にも活用してもらおうと、社内に所有していた児童書などを贈ったものです。

図書委員の海老名春希さんと阿比留絵里さんは、「学校みんながたくさん読んでくれるとうれしい」と、児童が図書室に来てくれることを楽しみにしていました。